

# 新潟県栄養士会医療事業部

## 平成 29 年度春季研修会報告

日 時	平成 29 年 5 月 13 日 (土) 10:00~16:30
会 場	新潟ユニゾンプラザ 参加者数： 142 名
事業内容	<p>シンポジウム</p> <p>「診療報酬改定後、充実した栄養指導していますか？」</p> <p style="text-align: right;">それぞれの栄養指導の実際」</p> <p>①「がん」 新潟大学医歯学総合病院 曾根 あずさ 氏</p> <p>②「摂食嚥下」 医療法人 誠心会 吉田病院 小沼 真理 氏</p> <p>③「低栄養」 医療法人社団 健進会</p> <p style="text-align: right;">新津医療センター病院 西村 美貴 氏</p> <p>④「在宅訪問栄養指導」 医療法人 恒仁会</p> <p style="text-align: right;">新潟南病院 河内 恭典 氏</p> <p>事業報告</p> <p>特別講演</p> <p>「効果的な栄養指導プログラム 実践手順と評価方法」</p> <p>栄養サポートネットワーク合同会社 代表 安達 美佐 先生</p>
所 感	<p>平成 28 年診療報酬改定に伴い、栄養指導対象疾患の拡充が行われた。拡充された疾患は、がん、低栄養、摂食嚥下。それに今まさに注目されている「在宅訪問栄養指導」を加えた 4 つの分野で実際に栄養指導を行っている施設から事例を発表してもらった。事例の中にはすぐにでも活用出来るアドバイスも含まれていた。発表した管理栄養士は、皆さん「患者さんに寄り添うこと」を心掛けて日々の業務を行っているのだろうと感じさせる発表内容であった。きめ細やかな対応の積み重ねから患者さんの信頼を得られる栄養士を目指したいと改めて思わされた。</p> 

特別講演では、栄養指導を行うにあたって根拠をもった回答が出来なければ患者さんも動いてくれない。根拠をもった回答こそが患者さんを「気づき」から行動変容に導ける。そのためには、ガイドラインや食事摂取基準などの基本的な知識はもちろんのこと、最新の知識にもアンテナをはる必要がある。一人職場の栄養士も多く栄養指導の実践に関して、他者から教育を受ける栄養士は少ないのではないかと感じていたため、今回のような基本から実践につなげていくような内容の講演は得るものが多かった。アンケートの感想からは「目からうろこ」という記載が目立ち、栄養士にとってまさに「気づき」を得た講演だったのではないかと思う。

